

# Hello

2000

11

No.217

# friends

KANAGAWA  
INTERNATIONAL  
ASSOCIATION  
NEWSLETTER

(財) 神奈川県国際交流協会 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ1階 ☎045-896-2626

## 特集

## 「コミュニティ・ハーモニー」を考える。

オーストラリア、ニューサウスウェールズ州シドニー。9月には、オリンピックが開催され、先住民族アボリジニーとの共生をテーマにした開会式はとても印象的でした。

先住民族の歴史は数万年前まで遡るそうですが、現在でも近隣のアジアや内戦の続く世界各地から移民を受け入れているオーストラリアは、180の国・地域にルーツを持つ人々が暮らす多文化の国です。そして多文化主義政策をとるなど、移民を受け入れている国々の中でも、先進的な取り組みを実践しています。

しかし、全く多文化と接点のない人も

おり、移民に対して、思わぬ衝突や偏見が生まれてしまうこともあります。また、マイノリティの人々の権利を保障するためには、政策上の多文化主義だけではなく、それを支え、改善していくための、NGOの活動や市民の参加が必要です。

今回のテーマの「コミュニティ・ハーモニー」とは、地域レベルで多文化についての理解を進め、同時に各エスニックグループの意見が反映できる多文化オーストラリアを目指す試みのことです。

かながわで、あなたのまわりでどのようなハーモニーが聞こえてくるか、考えてみませんか。



「あなたも私も皆オーストラリア人」というコミュニティ・ハーモニーをうたったポスター。

## コミュニティ・ハーモニー・プロジェクト

エスニック・コミュニティーズ・カウンシル(ECC)のメリンダ・ドゥーランさんに聞く

多様で豊かな文化が息づいているオーストラリアは、1971年以来、国の政策として多文化主義を掲げています。多くのオーストラリア人が異なる文化に対し寛容であり、表立った差別は少ないといえます。しかし、多文化主義に逆行する動きもあります。移民に排他的、先住民族の権利に否定的な立場をとる政党の発足もその一つです。

ECCは、移民や先住民族の各民族組織が参加し、多文化主義、教育、自治などの問題について政策提言、啓発活動を行っているNPOです。ECCは設立時から常に反人種差別を掲げ、オーストラリア社会の中に存在するあらゆる人種差別問題に取り組み、多文化主義や先住民族との和解などの政策整備に貢献してきました。

多文化主義に対抗する姿勢をとる政党が発足した1996年には、人種差別的な発言が多く取り上げられ、不安な状況が生まれました。ECCでは、この問題を直視し、反人種差別の新しいプロジェクトに取り組むことになりました。これが「コミュニティ・ハーモニー・プロジェクト」です。

人種差別はしばしば誤解や情報不足か

ら生まれます。例えば、「移民はオーストラリア人の雇用を奪っている」と考える人がいますが、きちんと調べれば移民の受入は新しい雇用を生み、経済の活性化に貢献していることがわかります。

ECCでは、19世紀から現在に至るオーストラリアへの移民の経験を綴った本の出版など、多様な歴史や異なる文化的背景をもつ人々が今日のオーストラリアを支えているということを示す事業も行っています。

コミュニティ・ハーモニー・プロジェクトは、このような情報をきちんと伝え、多文化主義を積極的に前面に押し出していくという目的で始まったのですが、この試みには、予想以上の大きな反響がありました。

他方、ECCでは同時に政府に働きかけ、時には強気の交渉にも臨んでいます。政府には、多文化主義を堅持し、進めていく責任があるからです。その結果、国際人種差別撤廃デーにあたる3月21日は、「ハーモニー・デー」として多文化の行事が多く行われるようになりました。

このように、ECCの行っているような地域レベルでの取り組みにより、政府を動



CCC(カブラマタ・コミュニティ・センター)の入口には、多言語で「ようこそ」と書いてある。

かすことができるのです。これからも、広く多文化主義を広め、コミュニティ・ハーモニーの良い模範を示すような活動を続けていきたいと思っています。

## 座談会： ハーモニーって何だろう

(財)神奈川県国際交流協会では、今年3月にシドニーへのスタディツアーを実施し、移民が集住する地域、彼らに対するサポートを行っているNGO、多文化教育を推進する学校現場などを訪れました。移民の国の今を体験した参加者13人が、ツアーを通して感じたこと、日本に住む外国籍の人々のこと、そして、「ハーモニー」について座談会形式で話し合いました。

### 移民がいきいきできる社会

- (富本) 今回のツアーで感じたことはどのようなことでしょう。
- (北村) 一番印象に残っているのは、日本で暮らしている外国籍の人と違って、移民がとてもいきいきしていること。
- (斎藤) 私もその理由はなぜかな、と考えていた。例えばホームステイ\*したラオス出身の家族は豪邸に住んでいる。彼らが頑張れたのも、努力すればあそこに住めるという目標があったからかな、と思う。今日本に住んでいる外国籍の人には、努力してもたどり着けない、というあきらめがあるように感じる。
- (ファミテ) 移民がオーストラリアにいる期間が長いから、そういう生活ができる。日本にいるベトナム人はまだ時間が短いから。もう少し時間があれば、色々な人が成功して、アメリカやオーストラリアのようになるかもしれない、そう思っている。
- (福島) 日本ではオーストラリアに比べて外国籍の人数が少ないから難しい部分もある。
- (荻村) 移民受入の歴史や外国籍の人数は違うが、社会としてチャンスはどうつくっていくか、オーストラリアと日本を比べてみると興味深い。例えば教育の機会の保障、奨学金制度など、オーストラリアが築いてきたものは大きい。
- (北村) 難民として国を出て、日本に定住するベトナム、ラオス、カンボジアの人々は、日本社会が当然受け入れるべき人達なのに、彼らが社会に平等に参加するためのシステムができているとは言えない。

### 多文化主義を支える人々

- (富本) CCC\*(カブラマタ・コミュニティ・セ



2000年3月のピースメッセンジャーがながわの参加者。最終日に行われた交流会でお世話になったNGO関係者、ホストファミリーと一緒に。

- ンター)やECC\*では移民をサポートするための様々な事業が行われていますが、町で感じた多文化主義はどうでしたか。
- (荻村) タクシーの運転手には移民出身者が多くて乗るたびに色々な話がきけた。皆、制度的な差別がなく、権利が保障されていることが自分たちにチャンスを与えてくれたと言っていた。彼らの積極的な参加がオーストラリアの多文化主義を支えていると感じた。
- (川田) 私たちがタクシーに乗った時も、運転手さんに「(シドニーの)どこに住んでいるのか」と聞かれた。アジア人でも、オーストラリアに住んでいるという意識でまず話をしてくる。違うな、と思った。
- (北村) マイリティである外国籍の人々がメインストリームに切り込んでいける土台が、まだ日本には欠けていると実感した。外国籍住民に参政権を付与するかの議論をみている、彼らが直面しているその他の問題への対応や保障がされるのか、見えない。
- (荻村) 日本では往々にして当事者不在で法律や制度が変わってしまう。市民の反応が少ない。賛成・反対がもっと色々議論があって、皆で悩んでプロセスをつくっていく。そこに多文化、色々な価値観が入る可能性があると思う。
- (富本) 私たちが参加した「反人種差別ビデオプロジェクト」は、移民の若者が自分たちや地域を取り巻く状況を意識的に考えるトレーニングになっていたと思う。マイリティでも、女性でも、きちんと意見が言えるんだって。あの日の参加者から元気をもらった。
- タから、シドニー中心部に行くと、白人ばかり。多民族の存在が感じられない。カブラマタと白人社会には壁があると感じた。多文化主義という政策自体はあるけれど、住んでいる人達の中には壁があるように感じた。
- (矢野) オーストラリアは制度的に壁はないけれど、心の壁があり、住み分けがある。ハーモニーは美しいけれど、難しい。でもECCが共生を目指すための具体的なアイデアを出していけるのはすごいと思う。
- (荻村) 見かけたあるポスターに「各コミュニティが強くなれば社会全体が強くなる」と書いてあった。僕たちは多文化共生というのは全てが分け隔てなく一体、と思いがちだ。だけど、オーストラリアは、モザイクのように近くで見ればバラバラだけれど、遠くから見ると一つのまとまりをなしている社会を目指している。

### 衝突がなければ、対話も生まれない

- (ファミテ) 日本人はベトナム人が固まって住むので嫌っているときいた。
- (斎藤) 急に外国籍の人が増えた団地では、多文化の人を受け入れて、楽しくやっていたいと思っても、実際に住んでみると、騒音や言葉などの問題もあるし、住民が戸惑っている。
- (川田) 私も、色々な国の人達が日本に住んでいること、頭でわかっているけど日常生活で接点がない。もっとわかりあえばいいな、と思うけれど。
- (北村) インドシナからの人達と接していると、いつもまわりを気にしているのを感じる。できるだけ日本人に迷惑かけないように、ひっそりと生きている。
- (荻村) ブラジルの人が急増し、トラブルが生じている愛知の団地の話をテレビでみた。日本人とブラジル人の話し合いの場をもつ。そうすると当然言い合いになる。関係をもち

### オーストラリアだって壁がある

- (池永) 私は、オーストラリアでも壁を感じた。ベトナムの人たちが多く住むカブラマ



ながら、結論を急がずに皆で困る、  
というのは大事だと思う。「困る」  
と「嫌う」は違う。

(北村) ぶつかってみて初めて互いの顔が  
見え、対話が生まれる。それは、  
けんかすることではなく、話し合  
うことでお互いを理解しあう場を  
少しずつ作っていくということ。横  
浜市泉区と大和市の境にある「い  
ちょう団地」でも自治会が中心とな  
って急増する外国籍住民との共生  
に向けて取り組んでいますよね。

(斎藤) 衝突ということで私がいち  
ょう団地を好きなのは、子どもが  
いたずらをしたりすると、しか  
つてくれるおじさんがいたりす  
ること。避けて通るのではなく、  
コミュニケーションをしていこう  
という姿勢がある。

(池永) 今度いちょう団地でお祭りが  
開かれるんです。これが一つの  
きっかけになるんじゃないかな。  
今まで接点がなかった近所の人  
と話したりできる機会になると  
いいな。

(北村) イベントでは、準備の段  
階も大事。「あの人はできない」  
ではなく、「一緒にやろうよ」と  
お互いに協力

していけば、外国籍の人たちの  
自信にもつながる。多国籍の住  
民が住む地域で、少しずつ変わ  
ってきている自治会もある。例  
えば、話合いがある時は多言語  
で呼びかけ、地域から名乗り  
出た人が通訳として橋渡しを  
する。

## 目標もてる社会へ

(荻村) シドニーオリンピックで  
アポリジニーの選手が金メダル  
をとった時に、「われわれはマイ  
ノリティ(少数者)だけれど、こ  
れで誇りをもてる」というコ  
メントが出た。マイノリティ出  
身のスターは、まだ日本では少  
ない。あるいは、マイノリティ  
出身であることを隠さざるをえ  
ないとも言えるけど。他方、そ  
ばにいて、寄り添える人も大  
切。オーストラリアのコミュニ  
ティ・ワーカーのように、地  
域の中において、ありのまま  
の自分を受けとめてくれる人。

(斎藤) 今、日本でベトナムが  
ブームだということをテレビで  
やっていて、一人の男の子が  
ぼつと「じゃ、おれ、ベトナム  
人っていえるね」といった。  
それってどういう気持ちから  
出た言葉だったのか。彼は自  
分がベトナム人であることを  
隠して生きてこなければなら  
なかったのか。

(北村) 日本に住む外国籍の子  
どもたちは、高校に進学して  
も、その先が続か

ない。目標までの道筋が描け  
ず、選択肢も少ない。日本の学  
校で学ぶ子どもたちは母国に  
帰って母語で仕事することは  
難しい。ホスト社会である日  
本がしっかり彼らを支えるシ  
ステムを作る責任がある。

(ファムテ) わたしも今困って  
いる。大学へ行きたいけれど  
お金がない。もらえる奨学金  
も限られている。

(北村) 異なる言葉や文化の  
壁を乗り越え一生懸命勉強し  
ても、日本社会では、評価さ  
れないことが多い。努力がし  
っかり認められるような仕組  
みをつくっていかないと。

## ハーモニーって何だろう

(矢野) 最後に、「ハーモニー」  
ってどんなことだと思いますか。

(川田) 互いの違いを尊重し  
ながら一つのものをつくり上  
げていくこと。

(高野) そう、異なるものが  
異なるままで存在していても  
全体で調和がとれていること。  
でも、そのためには共有でき  
る目標が必要かな。

(池永) 合唱でも息を合わせ  
るのに泣いたり笑ったり仲間  
割れがあったりする。色々な  
過程を乗り越えて、練習して  
ハーモニーが生まれるのかな。

(矢野) 音が外れて歌って  
いても全体で歌になってい  
ればハーモニー。

(音谷) お互いの声をよ〜く  
聴き合うことで生み出され  
るピク・ウェーブ。

### 用語解説

#### \*ホームステイ

今回のツアーではラオス、ベトナム、ポー  
ランド、ギリシャ、インド出身の移民家庭  
にホームステイを2泊体験しました。

#### \*CCC

(カブラマタ・コミュニティ・センター)  
住民の70%以上が外国生まれというカブラ  
マタ地区で移民対象に、英語教育、職業  
訓練、教育支援、各グループ組織などのあ  
らゆるサポートを行っている。政府の補助  
金を受けて活動するNPOである。

#### \*ECC

(エスニック・コミュニティーズ・カウンシル)  
1頁目参照  
反人種差別ビデオプロジェクト  
カブラマタで若者対象に行われているプロ  
ジェクトの一つで、自分の住む地域を取  
材、編集するという作業を通して地域に存  
在する差別問題や多文化先生の課題を考  
える内容になっている。

### 今回のツアー参加者

池永 絵梨(多文化まちづくり工房)  
音谷美美子(大学生・多文化音楽教育)  
川田美佐枝(出版社勤務)  
北村眞佐子(NGOかながわ国際協会)  
斎藤 美希(多文化まちづくり工房)  
高野 剛彦(高校教員)  
ファムティ・アントウ(高校3年生)  
福島 直樹(綾瀬子ども教室)  
守谷 美帆(高校1年生)  
矢野 泉(大学教員・教育学)  
山口 恵理(ファン・ボイ・チャウベトナム語教室)  
荻村 哲朗(神奈川県国際交流協会)  
富本 潤子(神奈川県国際交流協会)

## ピースメッセンジャーかながわ in オーストラリア 「コミュニティ・ハーモニー」を考える

参加者募集!

オーストラリア、シドニーで、移民や先  
住民族の課題に取り組んでいるNGOの人々  
と一緒に、ワークショップや話し合いを行  
い、多様な文化的背景をもった人々との  
「共生」について考えてみませんか。

3月21日の国際人種差別撤廃デーに行  
われる「ハーモニー・デー」の様々な行事  
への参加や、移民家庭でのホームステイ  
も予定しています。

**時 期** 2001年3月17日(土)~25日(日)  
8泊9日(機内2泊)

**参加費** 20万円程度

**対 象** 今回のツアーのテーマに関心  
のある高校生以上の男女 14人

**訪 問 先** オーストラリア ニューサウスウェ  
ールズ州シドニー及びその近郊

**説 明 会** 2000年12月17日(日)/  
2001年1月13日(土)

\*両日とも、午前10時~午後3時の2回、  
同じ内容で行います。

**事前研修** 1月~2月の土曜日の午後  
に3回程度

\*説明会、事前研修はいずれもあ  
らす 1月 地球市民かながわプラザ  
で実施します。

**問い合わせ** 管理・国連課

(E-mail:kanri@k-i-a.or.jp)



「反人種差別ビデオプロジェクト」の様子

# NGOと外国籍県民の声を県政に反映を!!

## NGOかながわ国際協力会議、外国籍県民かながわ会議、岡崎県知事へ最終提言!

神奈川県が1998年から設置している「NGOかながわ国際協力会議」と「外国籍県民かながわ会議」は、2年間の活動の成果を取りまとめたそれぞれの最終報告を、10月20日に岡崎洋神奈川県知事に提出しました。

### 「21世紀の共生社会をめざす新たなパートナーシップの実現に向けて」NGOかながわ国際協力会議最終報告

この会議では、これまで「共生社会の実現」を基本的な視点として、県とNGOやNGO相互の連携、多文化教育の視点から国際理解教育を進めるための方策を、同時に発足した「外国籍県民かながわ会議」と連携を図り検討してきました。この協議の結果を受け、最終報告では、地域社会で在住外国人を支援するため、多文化共生NGOネットワークを構築していくこと、NGOと自治体が協力して国際協力事業に取り組んでいくことなど、11項目の提言を行っています。この会議では、当協会の機能や役割などについても多様な視点からの意見が出て議論が行なわれました。それらの議論を踏まえての提言を真摯に受け止め、協会として関係機関の協力も得ながらその実現に努めていきたいと考えています。

提言の概要は次のとおりです。



最終提言を説明する佐藤一子(左)と金廣照(右)両氏。佐藤氏はNGOかながわ国際協力会議委員長、金廣氏は外国籍県民かながわ会議委員長。

在住外国人支援NGOや外国人コミュニティなどによる、多文化共生をめざしたNGOのネットワーク組織の設立を支援するとともに、パートナーシップを組むこと。

多様な国際活動の場とするため、地球市民かながわプラザのあり方を見直し、(財)神奈川県国際交流協会に運営を任せるとともに、NGO、外国籍県民などの参画により運営を行うこと。また、NGOや外国籍県民を支援するため、(財)神奈川県国際交流協会の機能を整備、充実していくこと。

県教育委員会が1990年に制定した「在日外国人(主として韓国・朝鮮人)にかかわる教育の基本方針」を、「多文化共生」の視点から改定すること。

NGOの国際協力活動に対し、県の専門技術や情報を提供し、また国際協力分野におけるNGOとのパートナーシップ事業を検討すること。

国内外で災害が発生した場合に、NGO、地方自治体、(財)神奈川県国際交流協会等による「緊急援助委員会(仮称)」を設置するなど、援助体制確立のため必要な支援を行うこと。

子どもたちが国際協力や国際理解に関する意識を高めるため関連授業を拡充し、NGOや外国籍県民が、授業プログラムづくりや講師として学校教育現場に参加する仕組みをつくること。また、県・市町村職員、教職員を対象とした国際理解研修の充実を図り、特に教職員については、NGO等が実施するスタディツアーへの参加を促進すること。

「NGOかながわ国際協力会議」「外国籍県民かながわ会議」の提言の詳細については、県民部国際課企画班(TEL直通: 045-210-3748)にご連絡いただければ入手できます。また、県庁のホームページ

(<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kokusai/seisaku/seisaku.htm>)では提言の骨子について見ることができます。

### 「外国人にも住みやすい神奈川に向けて」外国籍県民かながわ会議最終報告

この会議では、外国籍県民の県政への参加を実現するため、外国籍県民に係る施策や外国籍県民の視点を生かした地域づくりについて協議を行ってきました。

最終報告には、外国籍県民の生活に身近で切実な問題から法律や制度の改善にいたるまでの13項目19の提言が盛り込まれており、オールドカマーとニューカマーの双方の悩みや課題がバランスよく取り上げられています。

提言の概要は次のとおりです。

ニューカマーの子どもへの教育への配慮についてニューカマーの外国籍県民に対し、子どもの教育をおろそかに



岡崎知事(左側)を囲む両会議の委員の皆さん

しないよう関係各方面に働きかけるとともに、子どもに対しても不登校や学習の遅れを防ぐため、十分な配慮を行うよう市町村教育委員会に要請する。

外国人の教員採用における国籍要件の撤廃について

外国人の教員採用において、常勤講師ではなく、教諭としての採用に途を開くため、文部省局長通知を改めるよう国へ働きかけるとともに、県教育委員会に対しても教諭として採用するよう要請する。外国籍県民の地域参加の促進について

県内のすべての公共施設について、多文化共生の視点から外国籍県民に利用しやすいよう配慮するとともに、特に国際関係施設については、外国籍県民の参画のもとに運営を行うことにより改善を図る。

居住支援システムの整備について

言葉や生活習慣の違いから起こるトラブルに対応するため、外国人への賃貸住宅の紹介や多言語による情報提供・苦情相談体制を整備する。

多言語情報提供の充実について

県民に提供する行政情報について、漢字にルビをふる、難しい漢字の使用を避けるなどの内部基準をつくり、外国籍県民にもわかりやすい情報の提供に努める。

外国人労働者問題について

外国人労働者に、労働保険や健康保険、公的年金制度の存在を知らせるとともに、加入しやすいような条件の整備について国等へ要請する。

この最終報告をもって第1期NGOかながわ国際協力会議、外国籍県民かながわ会議は、その任を終え、11月より活動を開始する第2期会議へとパトタッチを行います。第2期のNGOかながわ国際協力会議、外国籍県民かながわ会議、第1回会議は、次のとおり開催を予定しています。

日時 2000年11月23日(祝・木)4:00~ 場所 地球市民かながわプラザ



## かながわ国際協力基金

# 「当事者」の関わりを重視する 3つのプロジェクトへ助成

かながわ国際協力基金による、今年度前期分の助成対象事業が決まりました。

いずれも、「障害者」「外国人労働者」「子どもを持つ外国籍の親」といった、それぞれの問題に関わる「当事者」が、事業を進めていく上で重要な役割を担っているのが特徴です。一方的に「与える」形の援助ではなく、同じ立場にある者同士の連帯と自立をめざしていることが、審査委員会でも高く評価されました。

### フィリピン障害者協同組合電算事業部支援活動

座間市にある福祉施設、アガベセンターでは、毎年、海外からの技術研修員を受け入れています。今回の事業では、同センターでコンピュータの研修を受けたフィリピン人技術者の所属先、障害者協同組合に日本から専門家を派遣し、日本での研修の成果が生かされるよう、技術指導を行うとともに、電算部門が事業として成り立つよう、運営方法などソフト面のアドバイスも行います。

**団体** (社福)日本キリスト教奉仕団  
**区分** 海外協力事業  
**助成額** 300,000円

### 移住労働者のための労働法学習会

**団体** カラバオの会  
(寿・外国人出稼ぎ労働者と連帯する会)  
**区分** 国内協力事業  
**助成額** 630,000円

### 外国人児童生徒のアイデンティティ確立の支援と保護者・教員・市民のコミュニティ作り

**団体** IAPE(外国人児童生徒保護者交流会)  
**区分** 国内協力事業  
**助成額** 1,060,000円

## 「ボランティア国際年シンポジウムinかながわ」開催のお知らせ

2001年のボランティア国際年に向けて、ボランティアやNPOの社会的意義と役割について理解を深めるとともに、市民・行政・企業間のパートナーシップ形成のあり方やNPO活動を推進するうえでの課題解決の方法などについて議論を深めることを目的に、「ボランティア国際年シンポジウムinかながわ」を開催します。当協会は、「ボランティア国際年シンポジウムinかながわ実行委員会」の構成メンバーとして、「市民とNPOを元気にするインターネット」分科会の運営を担当しています。皆さまのご参加をお待ちしています。

### 開催概要

**開催日時** 11月18日(土) 9:30~17:30  
(交流会17:45~19:00)

**会場** かながわ県民センター  
(横浜駅西口徒歩5分)

**主催** 経済企画庁・神奈川県

**運営協力** ボランティア国際年シンポジウムinかながわ実行委員会

**参加費** 無料

**問合せ** まちづくり情報センターかながわ  
(アリスセンター)

TEL. 045-212-5835

FAX. 045-212-5826

### 主な内容

パネルディスカッション - 10:00~12:00 -

「NPOって何だろう～一人ひとりを大切に  
する社会に向けて」

コーディネーター: 伊藤 裕夫(静岡文化芸術大学教授)

パネリスト: 石川 治江(NPO法人ケア・センターやわらぎ代表理事) 阿部 裕子(NPO法人かながわ女のスペースみずら事務局長) 三浦 知人(社会福祉法人青丘社「ふれあい館」職員)

分科会1 - 10:00~16:30 -

「NPOと行政の協働社会・新しい公共サービ

スの実現に向けた具体的システムづくり～協働事業・委託契約～」

進行: 佐藤 一子(NPO法人ソフトエナジープロジェクト理事長)

事例報告: 久住 剛(神奈川県職員) 梅井 彰子(NPO法人鎌倉市市民活動センター運営会議事務局長) 清水 雅子(NPO法人グループたすけあい理事長) ほか

分科会2 - 10:00~16:30 -

「地域社会におけるNPOと企業の協働～企業の本業を生かした地域づくりとNPO支援～」

進行: 川崎 あや(NPO法人まちづくり情報センターかながわ理事)

事例報告・助言: 谷本 寛治(一橋大学大学院商学教授) 岸本 幸子(NPO法人パブリックリソースセンター事務局長) ほか

分科会3 - 午前の部10:00~12:00、午後の部13:00~16:30 -

「市民とNPOを元気にするインターネット」

(午前の部)

進行: 楠木 孝昭(インターコミュニティネットワーク理事)

事例報告: 三竹 真知子(青葉バリアフリーサポート21代表)

(午後の部)

進行: 小山 紳一朗(財)神奈川県国際交流協会民際協力課長)

講師: 安田 幸弘(JCA-NETテクニカルディレクター)

事例報告: 仲田 博康(キーストーン主宰者) 松山 則政(NPO法人日本ブルキナファソ友好協会理事長) 篠原 憲一(すてきなまちをみんなで作る市民ネットワーク平塚事務局長) 川嶋 庸子(NPO法人まちづくり情報センターかながわスタッフ)

\*以上のほか、3つの分野別セミナーと特別分科会「NPO税制と個人寄付金控除制度」

交流会を開催します。

第5回

## 草の根国際協力 応援バザー開催!!

今年も、NGO(市民による国際協力組織)活動支援のためのバザーを開催します。バザーの売り上げはすべて、「かながわ国際協力基金」への寄付金とし、NGO活動への助成のために使わせていただきます。

毎年大好評のこのバザーは、今年で5回目を迎えます。毎年多くの企業、団体や一般の方々から、食品・食器・雑貨などの品物が寄せられ、昨年度の売上総額は404,671円となりました。入場は無料です。なお、11月18日(土)までバザーで販売する品物の寄付を受け付けています。準備作業、当日販売補助のボランティアも募集中です。

品物は、次のいずれかの方法でお届けください。

1. 協会事務所(横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 あーすぶらざ3階)まで持参  
\*お車で来館される方は無料駐車スペースをご用意いたしますので、事前に連絡をお願いいたします。
2. 赤のマシックで「バザー用品」と明記の上、(財)神奈川県国際交流協会あてに、宅急便で送付してください。(恐縮ですが、送料をご負担願います)

**日時** 11月26日(日)11:00~13:00

**場所** あーすぶらざ3階企画展示室

(JR根岸線「本郷台駅」徒歩3分)

**問い合わせ** 民際協力課

(E-mail: minsai@k-i-a.or.jp)

## 入賞作が決まりました!

国際交流・国際協力ポスター作文コンテスト

9月14日にポスター審査会(応募1,565点)

9月21日に作文審査会(応募820点)を開催し、

審査を行い、受賞者が決定しました。なお、表彰式、展示は次のとおりです。

**表彰式** 12月9日(土)午後

あーすぶらざ プラザホール(2階)

**展示** 12月9日(土)~17日(日)

あーすぶらざ 企画展示室(3階)

### ポスターコンテスト優秀者

林田 康汰(津久井町立中野小学校)  
宮坂 柚里(厚木市立妻田小学校)  
原 良輔(平塚市立南原小学校)  
原田 春奈(平塚市立なでしこ小学校)  
市川 達也(茅ヶ崎市立小出小学校)  
佐藤 裕美(厚木市立毛台小学校)  
永尾 優季(横須賀市立野比中学校)  
難波 桃子(厚木市立林中小学校)  
小松 孝之(厚木市立川中学校)

### 作文コンテスト優秀者

軽部 文(平塚市立大住中学校)  
王 元(平塚市立中原中学校)  
清水 摩耶(平塚市立中原中学校)  
橋本真喜子(平塚市立中原中学校)  
原 育子(平塚市立中原中学校)  
マクネーグリス(厚木市立厚木中学校)  
福岡 瑞咲(茅ヶ崎市立円蔵中学校)  
大高友里加(川崎市立生田中学校)  
鶴 綾子(川崎市立生田中学校)  
米田 純子(川崎市立南菅中学校)

## ことばと文化セミナー

## .....はじめて習うベトナム語.....

神奈川県国際交流協会では、はじめて習う方を対象にベトナム語講座を開きます。

**期 間** 12月15日～2001年3月16日、毎週金曜日18時30分～20時、全12回  
**場 所** あーすぶらざ1階研修室( JR根岸線「本郷台駅」徒歩3分)  
**資格・定員** ベトナム語学習初心者でベトナムに興味のある方、15名  
**受講料** 26,250円(教材費・消費税込み)  
**問い合わせ** 企画情報課(E-mail:kikaku@k-i-a.or.jp)  
**申込み**

文化の講座では、2001年2月から3月にかけて、「ベトナム映画上映」、「セミナー(在日ベトナム人事情)」、「ベトナム料理教室」を予定しております。ハローフレンズ1月号で詳細をご案内いたします。

## 地球市民フォーラム

## 戦争の世紀から共に生きる21世紀へ ～平和の文化国際年を考える～

世代や国籍を越えて、様々な人々が集い、「平和の文化」について考える場として、「地球市民フォーラム」を11月25日(土)・26日(日)に開催します。

シンポジウムやワークショップとともに、様々な活動を行っているNGOが企画参加した多彩な催しをあーすぶらざ全館で行います。幅広い世代の方々に国際理解、国際協力について考えていただく機会として、是非ご参加をお待ちしております。

**日 時** 2000年11月25日(土)・26日(日)  
**場 所** あーすぶらざ  
 (JR根岸線「本郷台駅」徒歩3分)

## 内 容

25日(土)シンポジウム 13:00～16:30  
 「平和の文化をいかに築くか～NGOの役割と市民社会の可能性」  
 基調講演：鈴木 佑司(法政大学教授)  
 シンポジウム：  
 遠藤 誠治(成蹊大学助教授)  
 米倉 雪子(OXFAM連絡調整コンサルタント)  
 松浦 香恵(「インターバンド」事務局長)  
 エドナ・マギル(ECC[オーストラリアNGO])  
 26日(日)ワークショップ  
 難民を疑似体験する 12:30～14:00  
 非暴力を実践する 12:30～14:00  
 平和構築とNGOの役割 14:00～16:00  
 多文化共生を考える 14:00～16:00  
 映画「アンダーグラウンド・オーケストラ」

(ビデオ版) 10:30～12:20  
 音楽家たちが語る亡命と抵抗と孤独と希望の歴史。  
 オランダのエディ・ホニグマン監督の作品。

草の根国際協力応援バザー 11:00～13:00  
 2日間を通じてすべて入場無料です。

**申込方法** TEL・FAX・E-mail

25・26両日 関連NGO団体の写真展などの催しなどがあがります。

**主 催** 神奈川県  
**共 催** (財)神奈川県国際交流協会  
**後 援** (社)日本ユネスコ協会連盟、  
 神奈川新聞社、TVKテレビ  
 山形国際・キュメンタリー映画祭  
 実行委員会

**協 賛** (財)自治体国際化協会  
**問い合わせ** 県立地球市民かながわプラザ  
 TEL：045-896-2898  
 FAX：045-896-2299  
 E-mail: earthplaza.0052@pref.kanagawa.jp

## 神奈川県国際交流協会(KIA)は

地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人とのつながりを大切に「国際交流」「国際協力」を推進するさまざまな事業を展開しています。

## あなたも会員になりませんか？

協会の活動を支える会員を募集しています。  
 会員になると

協会が主催する各種催しや国際交流団体、NGOの催し情報、ボランティア情報を掲載した『Hello Friends』『サラダボウル』をお送りします。  
 会員の方を対象にした催しへご招待します。  
 『エスニック・レストラン・マップ』をお送りします。  
 会員証の提示で、提携エスニック・レストランの優待サービスが受けられます。

年会費：個人 3,000円から  
 団体 10,000円から

\*会員になりたい方は、協会までお問い合わせください。振込用紙など関係資料をお送りします。

協会が運営する地球市民かながわプラザ内の施設の利用時間は下記のとおりです。

情報フォーラム 9:00～20:00  
 (土曜・日曜日・祝日 9:00～17:00)  
 映像ライブラリー 9:00～17:00  
 \*月曜日は休館日です。



このほか、神奈川県国際研修センターと神奈川県国際学生会館を運営しています。

各事業に関するお問い合わせは、  
 (財)神奈川県国際交流協会  
 (☎045-896-2626)  
 までどうぞ。

# Hello friends

2000年11月1日発行  
 第217号

発行 財団法人 神奈川県国際交流協会  
 〒247-0007  
 横浜市栄区小菅ヶ谷一丁目2番1号  
 神奈川県立地球市民かながわプラザ1階  
 ☎045-896-2626 FAX 045-896-2945  
 URL: http://www.k-i-a.or.jp  
 E-mail: hello@k-i-a.or.jp  
 デザイン (株)エイ・シー・ピー  
 印刷 (株)野毛印刷社

「文明」を物運びエネルギーが重要なエネルギーである」と名城大学の植田敦さんは言います。船や飛行機、電車の発達と普及により、人や物などの大量移動が短時間で可能になり、それらによって現在の私たちの生活は成り立っています。例えば、昨日インド洋で泳いでいたメダカを明日横浜のスーパーで買えるのは、それらを支えている輸送手段とそれを動かすエネルギーがあるからです。そのいちばん重要なエネルギーで最も優秀なのは、「石油」だと言います。エネルギー効率の高さや原料として化学製品などの多様な用途に利用ができることや制御の安全性から考えると最も良いのは「石油」になるそうです。しかし、石油は化石燃料と呼ばれる有限資源である数十年前から百年くらいで枯渇してしまう可能性があります。また、二酸化炭素の排出問題などもあり代替エネルギーの必要性が求められています。私たちの多くは、エネルギー問題も科学技術の発達によって解決できるのではという漠然とした思いを持っていますが、現在の科学技術では石油に勝る代替エネルギーの開発は非常に難しく、天然ガスが石油と併用される次世代の主要エネルギーになるともいわれています。私たちが次世代の人々にこの地球をまかすに引継ぐには、石油をあまり使わないサイクルや省エネルギー生活などにより石油を節約し大事に使っていく方法しかないようです。まずは、机の上のペットボトルをマグカップに。

\*キャラバン・サライとは、かつてシルクロードにあった隊商宿、文化・情報の中継点となっていました。協会職員からのメッセージ発信の場となるよう名付けました。次回の機関紙の発行は1月上旬の予定です。(Hello Friendsは奇数月に発行しています。)